

■「持続可能な未来」をめざす「東京2020運営計画への連携プラン提案」検討会合

# 持続可能な調達に向けて

2016年6月10日資料

NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット



Melody Ablola, Senior Consultant, Operational Performance  
Rainer Zimmann, UKMEA Waste Business Leader

ARUP



# はじめに オリンピック・パラリンピックの 持続可能な実施に向けて

ロンドン2012大会の規模は？  
再開発総面積7km<sup>2</sup>・競技場数31・大会関係者28万人  
チケット購入者1,100万人・食事の用意1,550万食

1994年IOCはオリンピック精神  
「スポーツ」「文化」に加え、  
「環境」を第3の柱にすると宣言！

2012年ロンドン大会は  
「地球一個分の暮らし」をテーマに  
「環境」だけでなく  
持続可能性を視野に開催

## ■総合力を高めた4つのポイント

- ①理念と計画、目標を明確に持ち、持続可能性専門チームを設置
- ②調達など実施を担保し評価する基準として、マネジメントシステムを導入  
BS8901から国際イベントマネジメントシステム ISO20121へ発展
- ③持続可能性調達基準を作成し、関係者に浸透させる研修の徹底
- ④それぞれの知見を持つ民間企業・NGO・市民との「共創」





# 持続可能なロンドン2012の理念・計画、目標&調達基準

## ODA

オリンピック開発公社  
「持続可能な開発戦略」2007  
オリンピックパーク開発視点

- ①デザインとアクセス性
- ②雇用と職能教育
- ③平等と参画
- ④安全性の確保
- ⑤サステナビリティ
- ⑥オリンピックレガシー活用

## LOCOG

ロンドン・オリンピック&  
パラリンピック組織委員会  
「ロンドン2012

- 持続可能性計画」2007
- ①気候変動への対策
  - ②廃棄物の最小化
  - ③生物多様性の保全
  - ④インクルージョン社会的包括性
  - ⑤健康な生活

ロンドン市 「レガシー・  
アクションプラン」2008

- ①英国をスポーツ大国に
- ②ロンドン東部の変革
- ③若者世代の活動環境
- ④持続可能な都市モデル
- ⑤英国が住み・働きやすく、創造的で誰もが参加でき、世界の人々を歓迎する場だと、内外に発信

## ■「持続可能性計画」の主な目標2009

- ①気候変動⇒2013までにOP施設からのCO2半減・大会後OP内は再エネ20%に
- ②廃棄物⇒解体廃棄物90%を回収・建設資材20%に再生資源・廃棄物70%再利用
- ③生物多様性⇒水生&陸生動植物の生息環境・河川流域に野生動植物の回廊建設
- ④社会的包括性⇒建設作業員10~15%地元雇用・20か国子供1200万人に五輪教育
- ⑤健康的な生活⇒荒廃用地整備・英国産の食品飲料の質アピールしレガシー残す

## ■目標を実現するガイドラインと調達コード

「ロンドン2012サステナブル  
イベントガイドライン」2009

「持続可能な調達基準」  
包装材・フードビジョン・仮設資材など





## ■ロンドン2012フードビジョン 1550万食分の調達指針

- ①地元産(輸送時CO2削減に貢献し自国の農家保護にも) ②持続可能な農業
- ③オーガニック ④季節の野菜 ⑤フェアトレード ⑥栄養バランスに優れたメニュー

指針を具体化する契約条件は最低と最高を設定(品目は、肉・魚・コーヒーなど多種)  
 ・最低条件はレッドトラクターマークの食材であること(トレサビリティーの遵守)  
 ・より質高く、重視した3認証 海のエコラベル フェアトレード FSC認証

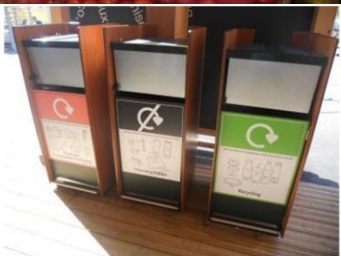
## 持続可能な調達基準の実施をどう担保するのか？

■「責任ある調達」「再生材の利用」「環境影響の最小化」「有害物質の削減」を担保する、サプライヤーの物品・サービス購入の調達基準の基本原則

1. どこで作ったか？(まず地域産・国内産) 2. 誰が作ったのか？
3. 何でできているか？(リユース・リサイクルできるか) 4. 包装材は？
5. 使用後、どこで使われ、どう処分されるか、今後活用できるか？

## ■実施を担保するマネジメントシステム導入⇒2007年英国内規格BS8901

- LOCOGがサプライヤーに持続可能性基準を守るよう提示  
2012年オリンピックまでに第1～3どれか認証を受けることを明記して契約
- 第1基準群 基準満たすと自己宣言する
- 第2基準群 外部からも基準を満たしていると評価を受ける
- 第3基準群 費用をかけて認証機関の認証を取得する
- 2012年、国際イベントマネジメントシステムISO20121誕生



# 東京2020の持続可能性と＜東京2020ビジョン＞

■IOC2014年12月採択  
「オリンピック・アジェンダ2020」

オリンピック競技大会の総ての側面に持続可能性を導入すること。オリンピック・ムーブメントの日常業務に持続可能性を導入する。

## ＜東京2020大会ビジョン＞

スポーツには、世界と未来を変える力がある。

1964年の東京大会は日本を大きく変えた。2020年の東京大会は、「すべての人が自己ベストをめざし(全員が自己ベスト)」、「一人ひとりが互いを認め合い(多様性と調和)」、「そして、未来につなげよう(未来への継承)」を3つの基本コンセプトとし、史上最もイノベーティブで世界にポジティブな改革をもたらす大会とする。

「街づくり・持続可能性」専門委員会  
アクション&レガシープラン検討

「持続可能性」ディスカッションG  
「運営計画」「調達コード」等検討  
提案募集も実施

「持続可能性に配慮した運営計画 フレームワーク」＜東京2020大会が目指すべき持続可能性の方向＞

- 環境だけでなく、社会、経済の側面を含む
- 東京の特徴を活かす。充実した都市基盤・安全性、おもてなし・もったいないといった日本的価値観、最先端テクノロジー(より高度な省エネ・再エネ・リサイクル等環境対策技術)の活用など

運営計画 5つのテーマ

- ①気候変動(ローカーボンマネジメント)
- ②資源管理
- ③水・緑・生物多様性
- ④人権・労働・公正な事業慣行等への配慮
- ⑤参加・協働、情報発信(エンゲージメント)

計画実現に活用する3つのツール

- ㊦持続可能なイベントマネジメントシステムISO20121
- ㊦持続可能性に配慮した調達コード
- ㊦オリンピック大会影響調査

## 持続可能性に配慮した調達コード＜基本原則＞

- ①どのように供給されているか    ②どこから採り、何を使って作られているのか
- ③サプライチェーンへの働きかけ    ④資源の有効活用



## 東京2020で考える、そもそも必要な「食料への配慮」とは？

### 全般への配慮～安全・安心な食の提供～

- 食品安全と衛生管理（法令順守・トレーサビリティ含む）
- 宗教や各国の文化を尊重した食の提供
- 総ての段階での食品ロス削減と循環利用

### ロンドン2012: 6項目の調達指針

- 地元産（輸送距離短くCO2削減）  
（自国の農家支援と保護）
- 持続可能な農業・林業・漁業
- オーガニック
- 季節の野菜・果物
- フェアトレード
- 栄養バランスに優れたメニュー

### 東京2020: 日本らしい追加項目

- 災害復興支援（東北・熊本）
- 和食メニューでおもてなし
- 中小事業者への配慮

# 東京2020の持続可能な「食料」調達指針のイメージ

- ①食品安全と衛生管理（法令順守・トレサビリティ含む）
  - ②宗教や各国の文化を尊重した食の提供
  - ③和食メニューで日本の良さをアピール
  - ④地元産・国産 （輸送距離が短くCO2削減、自国の農家支援と保護）
  - ⑤食品ロス削減と循環利用の徹底
  - ⑥持続可能な農業・漁業 （海のエコラベル・フェアトレード・オーガニックなど）
  - ⑦季節の野菜-果物-海産物 （旬のもの）
  - ⑧栄養バランスに優れたメニュー
  - ⑨災害復興支援 （東北・熊本県産品の重視）
  - ⑩中小企業の産物の活用
- ・ 全国の農家もオリンピックを支え、持続可能な農業が推進される



この指針を実現するための、調達に関する配慮項目は？



# 「食料調達指針」実現に向けた配慮項目 案 (番号は前ページに対応)

(全般)①食品安全と衛生管理(国際・国内安全・衛生規制、トレーサビリティ)

・調達供給への対応(供給量とその十分性、経済性)(⑩含め対応)

②宗教上の配慮

③日本らしさ、和食などの日本食への配慮

(環境)・放射線に対する懸念

・環境保全(自然環境保全、生物多様性)

④温室効果ガス排出量・エネルギー使用量の低減

⑤循環型社会(サプライチェーン)、食品ロスへの配慮

(社会)⑥労働環境への配慮

⑥人権侵害への配慮

⑥⑦⑧⑨地域貢献(持続可能なコミュニティ形成への貢献)

(経済)国際制度としての認知(適合性評価)

制度参加のためのコスト(適合性評価、認証費用、経済性)

紛争対応のためのコスト(適合性評価、事故対応、持続可能性ルール違反、法規制違反)

・GIマークなどの地域表示制度



| 食の国際認証マークに関する配慮項目の特徴                                                       | レッド<br>トラクター | MSC・<br>ASC | フェア<br>トレード |   |
|----------------------------------------------------------------------------|--------------|-------------|-------------|---|
| 全般) 食品安全と衛生管理 (国際・国内安全・衛生規制、トレーサビリティ)                                      | ○            | ○           |             |   |
| 調達供給への対応(供給量とその十分性、経済性) 海外産△ 国内産○<br>難点; 物品によって供給量に差がある(MSC, ASC, フェアトレード) | ○            | △           | △           |   |
| 宗教上の配慮                                                                     |              |             |             |   |
| 日本らしさ、和食などの日本食への配慮                                                         | ○            |             |             |   |
| 環境) 放射線に対する懸念                                                              |              |             |             |   |
| 環境保全(自然環境保全、生物多様性)                                                         |              | ○           | ○           |   |
| GHG排出量・エネルギー使用量の低減                                                         | ○            |             |             |   |
| 循環型社会(サプライチェーン)、食品ロスへの配慮                                                   |              | △           | △           |   |
| 社会) 労働環境への配慮                                                               |              | ○           | ○           |   |
| 人権侵害への配慮                                                                   |              |             | ○           |   |
| 地域貢献(持続可能なコミュニティ形成への貢献)                                                    | ○            | ○           | ○           |   |
| 経済) 国際制度としての認知 (適合性評価) 認定制度による保証がない△                                       | ○            | △           | △           |   |
| 制度参加のためのコスト (適合性評価、認証費用、経済性)                                               | 要確認          | 要確認         | 要確認         |   |
| 紛争対応のためのコスト(適合性評価、事故対応、ルール・法規制違反)                                          | ○            | 要確認         | 要確認         |   |
| ・GIマークなどの地域表示制度                                                            | ○            | 要確認         | 要確認         | 9 |

# 「オリンピック・パラリンピックのレガシー」は 未来への懸け橋！

東京2020を「次の暮らし・仕事・街づくり・国づくり」を  
みんなでめざす契機にするために、  
市民・企業・行政の連携による検討状況を提案する等  
多様な主体の協働のプラットフォームづくりを進めます



参考: ロンドン視察報告

「みんなで創る オリンピック・パラリンピック」

崎田裕子・鬼沢良子・足立夏子:  
NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット 編著  
松田美夜子監修 環境新聞社 2015  
<http://www.genki-net.jp/>